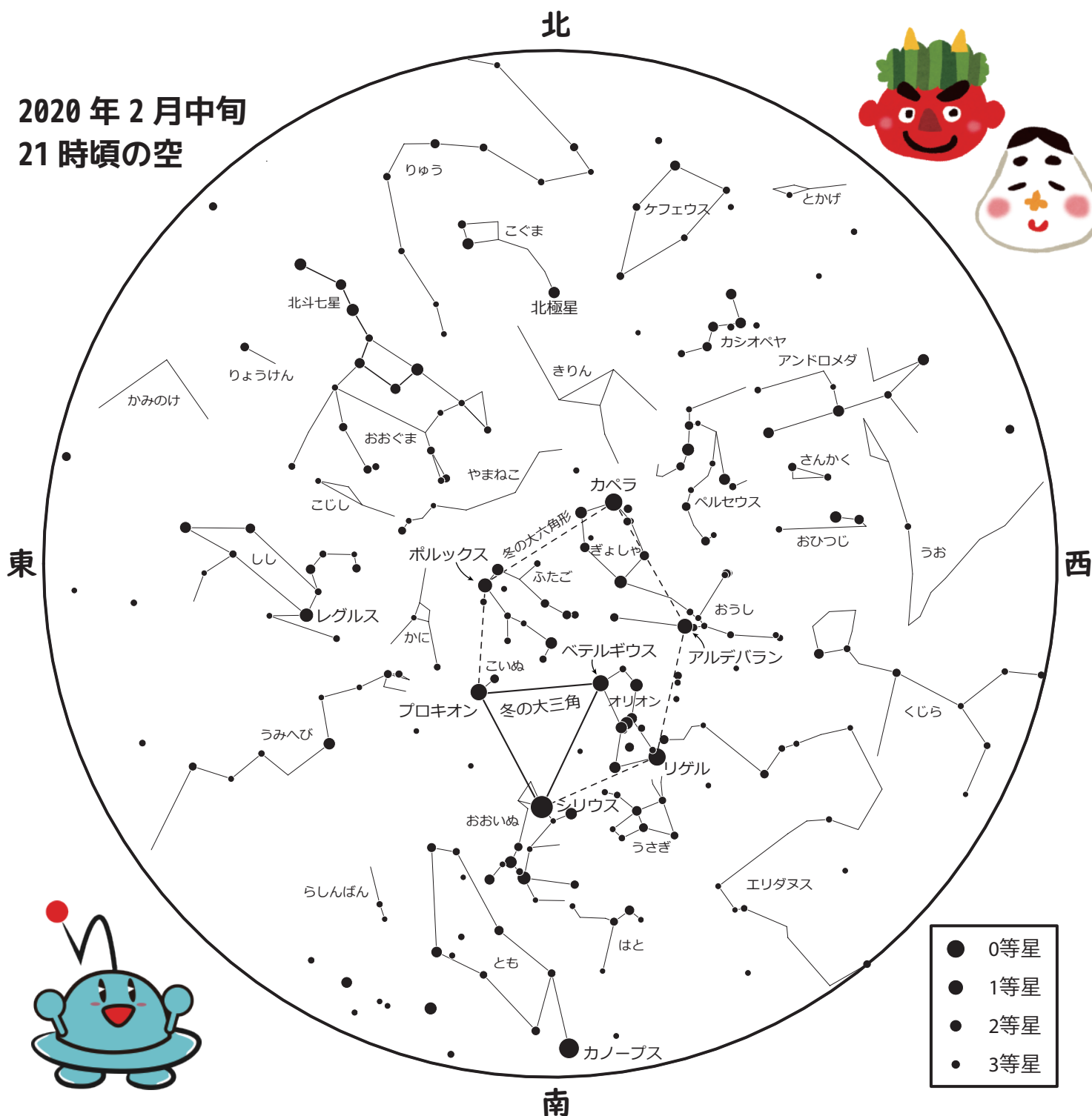


阿南市科学センター 2月の星空案内

2020年2月中旬
21時頃の空



夜空を見上げれば、7つの冬の明るい星たち（約0～1等星）がきらめく2月。この時期は小学4年生でも学習するオリオン座や、冬のダイアモンドが目をはきくでしょう。さらにシリウス、プロキオン、ポルックス、カペラ、アルデバラン、リゲルを繋げば、冬のダイアモンドと呼ばれる大きな六角形を描くことができます。ところで、この時期は七福神の寿老人にもたとえられる「カノープス」という星が探しやすく、阿南市では南が開けた場所であれば、21時頃のごく低空（高度約4°）に見つけることができるでしょう。ただこの星は南の空に見えてもすぐに沈んでしまうため、観察可能時間が短いことに加え、南の低空の透明度が良くないといけません。そのため昔からカノープスを見ることができれば大変ラッキーで、長生きすることができるという言い伝えが残っています。

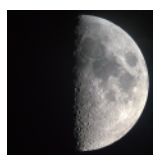
天体観望会のご予約はネットかお電話にて 【毎週土曜日開催 / 18時～, 19時～, 20時～】

阿南市科学センター

電話 0884-42-1600

<http://ananscience.jp/science/>

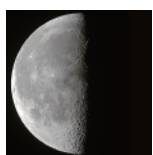
■ 2月の月の満ち欠けと惑星について



上弦
2日



満月
9日



下弦
16日



新月
24日

2月の天体観望会で月が見える日時は？

-  2/1(土)・・・全ての回で観察可能
-  2/8(土)・・・全ての回で観察可能
-  2/29(土)・・・全ての回で観察可能

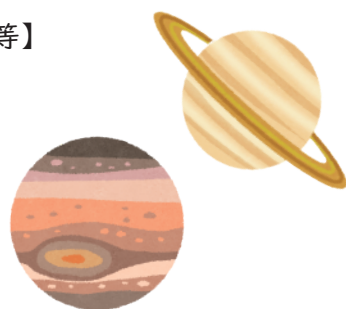
水星：2/10 東方最大離隔。この頃、日没後西のごく低空で観察可能。【約-0.5等】

金星：日没後に西の空で見える。観察好機。【約-4等】

火星：夜明け前、南東の空で見える。【約1等】

木星：夜明け前、東の低空で見える。【約-2等】

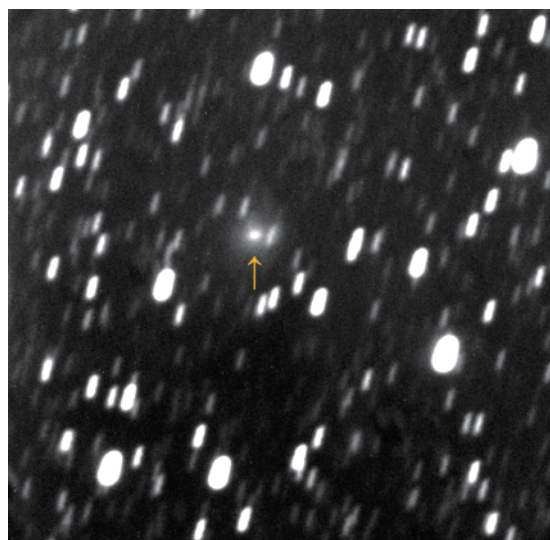
土星：夜明け前、東のごく低空で見える【約0.5等】



■ 最近の天文ニュース

【徳島から再び新彗星発見！】

2020年1月9日頃、約1年ぶりに日本のアマチュア天文家によって新しい彗星が発見されました。発見したのは徳島県阿波市の岩本雅之さんと、同月9日早朝の5時半過ぎに、東の低空（へびつかい座）のあたりを撮影した2枚の画像に、微かに彗星らしき天体が写っていることに気がつき、国立天文台などの専門機関に報告を行いました。その時点ではまだ新しい彗星かどうかはわかりませんでしたが、その後1月13日にクリミアのG. ボリゾフ氏の観測によって新彗星であることが確定的となりました。そして16日には国際天文学連合によって正式に岩本彗星 (C/2020 A2) という名が命名されました。岩本さんは2018年末にも立て続けに2つの新彗星を発見されており、新彗星発見は今回のものを含めると計4つ目となります。



阿南市科学センターで撮影した岩本彗星 (C/2020 A2)。
(2020年1月15日5時54分頃)

【ベテルギウスがいつもより暗いぞ！】

冬の代表的な星の一つベテルギウスは冬の大きな三角に数えられる約0等の星です。その輝きは星の明るさランキングで10位圏内に入るほど。ところがこの冬、ベテルギウスの明るさがなんと約1.5等まで暗くなり、1等星よりも明るい星たちの中では最下位（21位）に転じてしまいました。ここまで暗くなるのは数十年ぶりの出来事だと言われています。

なおベテルギウスは赤色超巨星といって、サイズが太陽の約一千倍もある恒星です。星としての寿命をほとんど終えている老いた星のため不安定な状態にあり、星自身が収縮・膨張することで星内部の温度を調節し何とか輝き続けています。このとき星のサイズが小さくなると熱くなって明るく、逆に大きくなると冷えて暗くなると考えられています。ベテルギウスは変光の周期が複雑なため確かなことは言えませんが、次の冬には元の0等星に戻っているかもしれませんので、この冬は是非ご注目ください！



2016/12/29



2020/01/01

いつもよりベテルギウスが暗くなっている様子（右写真）。
(阿南市科学センター撮影)